

開催年月日 平成31年2月25日(月)
 質問者 公明党 吉井 透 議員
 答弁者 知 事 高橋 はるみ
 保健福祉部長 佐藤 敏

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>三 保健医療問題について 次に、保健医療問題についてであります。 (一) 健康長寿について 我が国の平均寿命は、男性が81.09歳、女性が87.26歳で、男女ともに過去最高を更新し、世界有数の長寿社会であります。重要なのは、健康上の問題で日常生活が制限されない期間である、健康寿命であると考えます。 厚生労働省が公表した平成28年の健康寿命は、男性が72.14歳、女性が74.79歳であり、平成22年と比較して、男性で1.72歳、女性で1.17歳延びておりますが、平均寿命と概ね10年間の差がある状況であります。 本道において、一人でも多くの高齢者が、健康で安心して暮らせるためには、健康寿命の延伸といった包括的な目標を掲げることはもとより、若いうちから、道民一人ひとりのライフステージに合わせた、総合的な施策の体系と推進体制を整備することが重要であると考えます。 このためには、働き盛り世代の健康づくりが重要であることから、健康経営の推進など、新たな視点にたった取組が必要と考えます。企業においては、従業員等の健康管理を経営的な視点から戦略的に実践する健康経営に取り組むことにより、従業員等の活力向上や生産性の向上、組織の活性化などの効果が期待できると聞いております。 このような経済界等の取組などを促進し、行政、事業者、道民それぞれの役割を踏まえ、健康長寿を目指す、総合的な施策に取り組むべきと考えます。 そこで、以下伺います。</p> <p>1 経済団体と連携した健康づくりについて 平成30年第1回定例会のわが会派の代表質問に対して、知事は、「道民の健康づくり推進協議会に新たに経済団体にも参画をいただき、道民全体の健康づくりに向けた取組の拡大を図った」などと答弁をされましたが、具体的にどのような取組を行っているのか伺います。</p> <p>2 健康寿命延伸の取組について また、健康寿命を延伸し、道民が長く健康で安心して暮らせるためには、働き盛り世代の健康増進や</p>	<p>【保健福祉部長】 企業と連携した健康づくりについてでございますが、道では、これまで、市町村や関係団体、企業等と連携して生活習慣の改善や特定健診の受診率向上など、道民の健康づくりに向けた取組を進めてきたところでございます。 こうした中、新たに経済団体にも「道民の健康づくり推進協議会」に参画をいただきまして、今年度は、健康経営に取り組む事業所の優れた事例や、職場の取組のヒントなどを取りまとめた小冊子を作成しているところでございます。 道といたしましては、この小冊子の提供など、あらゆる機会を活用し、事業所に健康経営などを幅広く紹介することにより、道内企業の健康づくりの気運の醸成を図りまして、生涯を通じた健康づくりの取組を推進してまいります。</p> <p>【知事】 健康寿命の延伸についてでございますが、道ではこれまで、がん検診の受診促進やたばこ対策、健康マ</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>特定健診・がん検診の受診率向上、予防医学の普及など、行政はもとより、大学や医療機関、保健所、各種団体等が連携して総合的に取組を展開すべきと考えます。今後、どのように取り組まれるのか伺います。</p> <p>(二) 骨髄移植について</p> <p>1 骨髄バンクのドナー登録について</p> <p>先般、日本競泳界のエースである池江璃花子選手が、白血病と診断されたことを公表されました。東京オリンピック・パラリンピックを控え、国民全体の期待を担っている有望選手であるだけに、私も含め、多くの方々が衝撃を受けたのではないかと思います。</p> <p>まずは治療に専念していただき、病気に打ち勝って、必ずや競技に復帰してもらいたいと心から願うものであります。</p> <p>白血病の治療は、抗がん剤による化学療法が中心ではありますが、骨髄などの造血幹細胞の移植が必要と判断される場合があるものと承知をしております。</p> <p>報道によると、池江選手の発症が公表されて以降、日本骨髄バンクへの問合せが急増し、これまで、通常一日あたり5～6件程度だったものが、50倍近い270件もの問い合わせがあったとのことであり、国民の中にもドナー登録への関心が高まっているものと考えます。</p> <p>そこで、道内のドナー登録の現状はどうなっているのか、また、どのような課題があると認識をしているのか、伺います。</p> <p>2 今後の対応について</p> <p>また、今回の事例を契機に、日本骨髄バンクも積極的にドナー登録への協力を呼びかけておりますが、骨髄移植については、HLAといわれる白血球の型が一致する必要があると、血縁者であってもその適合割合は4分の1、非血縁者間では、数百から数万分の1の確率でしか一致しないと言われております。</p> <p>国内には骨髄移植を待ち望む患者さんもまだまだ多いことから、今後も積極的な普及啓発活動を展開し、広く一般からドナーを募り、善意の協力者を確保していくことが重要と考えます。今後、道としてどのように対応されるのか、知事の所見を伺います。</p>	<p>イレージ事業など、様々な施策を実施してきたところであり、道民の健康寿命は徐々に向上をしてきているところであります。一方で、健診受診や食生活、運動、喫煙といった生活習慣などに、改善すべき課題は、少なくないものと認識をいたします。</p> <p>道といたしましては、新たに経済団体に「道民の健康づくり推進協議会」にご参画をいただき、健康経営の推進や、新たな視点での取組の拡大に努めているところであり、昨年改訂をした「健康増進計画」などに基づき、道医師会をはじめ、多くの関係機関・団体・企業と連携しながら健康寿命延伸などに向けた総合的な取組を道民一丸となって推進をしております。</p> <p>【保健福祉部長】</p> <p>骨髄バンクへのドナー登録の現状などについてでございますが、平成30年12月末現在、道内のドナー登録者数は17,043名でありまして、直近5年間の登録者数は、ほぼ同水準で推移しておりますが、18歳から54歳までのドナー登録の対象年齢人口が減少しておりますとともに、40代以上の登録が6割を越え、その割合が年々増加しているところがございます。</p> <p>こうした状況下においても、今後、ドナー登録者数を確保していくためには、新規登録者の増加、特に、若年者の登録拡大を図りますとともに、移植に関する負担感を軽減する環境づくりも進めながら、登録制度に対する理解をさらに深めていくことが必要と考えております。</p> <p>【知事】</p> <p>骨髄バンクへのドナー登録についてであります。急性骨髄性白血病の治療として、骨髄移植は有効な手段の一つであり、一人でも多くの方々に移植を実現するためには、社会全体でドナー登録の拡大に取り組んでいくことが重要であります。</p> <p>こうしたことから、道では、毎年10月の「骨髄バンク推進月間」のパネル展の開催、保健所や日赤の献血ルームでの登録受付、移動献血車における「ドナー登録会」の開催など、登録制度の普及と登録機会の拡大に努めてきているところであります。</p> <p>今後、骨髄バンク推進協会をはじめとする関係団体と十分な連携を図りながら、粘り強く普及啓発に取り組むとともに、「ティーンズドナーキャンペーン」など、様々な機会を活用しながら、特に、若い世代を中心とした新たなドナー登録の拡大に取り組んでまいりたいと考えております。</p>